

山行報告書

受付 No.	4	登山地・ルート	南駒ヶ岳 (2712 ピーク付近まで)
目的	春山に向けスノーリッジをこなす練習		
メンバー	大山、坂野、久保田		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
4・7・土	雪/曇り	浜松=伊奈川 [△] Ⓟ~南駒登山口~北沢尾根三角点(2411m) 6:12 7:35 13:12
4・8・日	晴れ	北沢尾根三角点~2591 ^{ピーク} ~2712 ^{ピーク} 先~2411m~伊奈川 [△] Ⓟ=浜松 5:41 6:50 9:36 12:10-50 16:44

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

今回の山行に一番積極的だった柴田さんがまさかの当日キャンセル(仕事だから仕方ないね)。無口な2人との静かな山行となる。前夜発、ダムに向かう林道に入る前に寄ったコンビニで雪が降り始める。駐車場まで行けるか心配だったが今回はOK。雪で白くなった駐車場にテントを張って仮眠する。

朝、少し雪の舞う中を出発。坂野氏が速いのはいつものことだが、久保田氏もそれに続き(しかも2人とも無言)、張り合うようにしてあっという間に見えなくなってしまった。付いて行けるか!と、こちらはあくまで自分のペースをキープして歩く。2人のトレースは重なることもなく、自分はそのトレースを歩いて省エネ歩行する。南駒の登山口を入れてしばらく行くと登山道が凍結して歩きにくくなってきたのでアイゼンを装着。樹林帯は、尾根が広がった部分ではルートが不明瞭な箇所があり、尾根が細くなった部分では樹から落ちた雪が積み上がって登山道の部分が盛り上がっている箇所がある。そういう所を通過するときは気をつけないと樹上の雪がごそっと降りかかる。途中から久保田氏が遅れ始めたので共同装備を分担する。そこから2411mの北沢尾根分岐までは急登が続き、登りきったところで行動終了とした。

2日目は3時半に起床。快晴。尾根上に積もった雪を巻いたり突破したりしながら進み、辿りついた2591ピークからの眺めは絶景。しかし尾根の上部ではすさまじい雪煙が朝日を反射している。2591ピークは少し南に下りると風もなく、初日にここまで来られれば絶好のテント場だ。尾根を進んで前回ロープを出したナイフリッジまでくる。前回より積雪が多く今回もロープを出して慎重に進む。薄い雪庇の部分に手を当てて進んでいたらゴソッと落ちて「うわっ!」と思わず声が上がる。下ったところでピッチを切り、次のピッチは坂野氏が尾根の左側を巻いて行ったがちょっと悪かった。ロープは2ピッチで回収し、2712ピークに登る。風が非常に強くなってくる。一旦下り、岩の基部をトラバースして行くと久保田氏の足が滑ってあわや滑落とヒヤッとする。そこからひと上りしてその先を見たところで、上り下りの時間をシュミレートして撤収を決断。未練は残ったが着た道に戻る。

下り始め、岩混じりの箇所ので念のため補助ロープを出し慎重に下る。ロープを出した箇所はロープなしで尾根通しに通過し、2591ピークで来た道を振り返る。朝よりも風が収まっているようにも思えた。そこからは緩んだ雪がアイゼンにダンゴになり、悪戦苦闘しながらテント場まで戻る。テントを撤収して下山。そこからも踏み抜きやダンゴにうんざり。登山口まで下りると、前日真っ白だった林道の雪は解け、明るいところで顔を出したフキノトウを収穫しながら(フキノトウに興味のない2人は先に行ったが)、一人のんびりと歩いて駐車場に戻った。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者	
-----	----	----	----	---	---	---	-----	--



降雪直後の林道



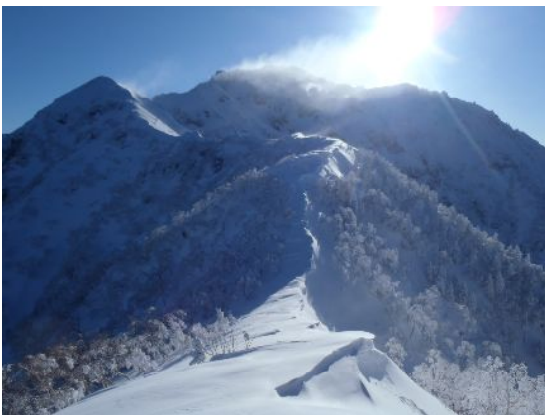
ここでロープを出す



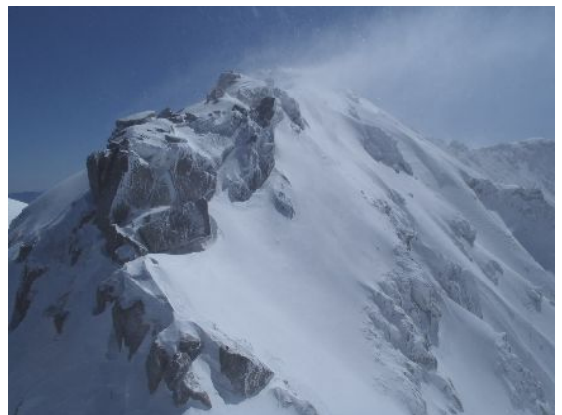
歩きにくい樹林帯



強風のなかを進む



2591 ピークからの眺め



ここから先はまた今度